

2019年10月7日

あおぞら投信株式会社

## 「現金を 積み上げてみて 眺めるか 明日への糧に 使ってなんぼ」

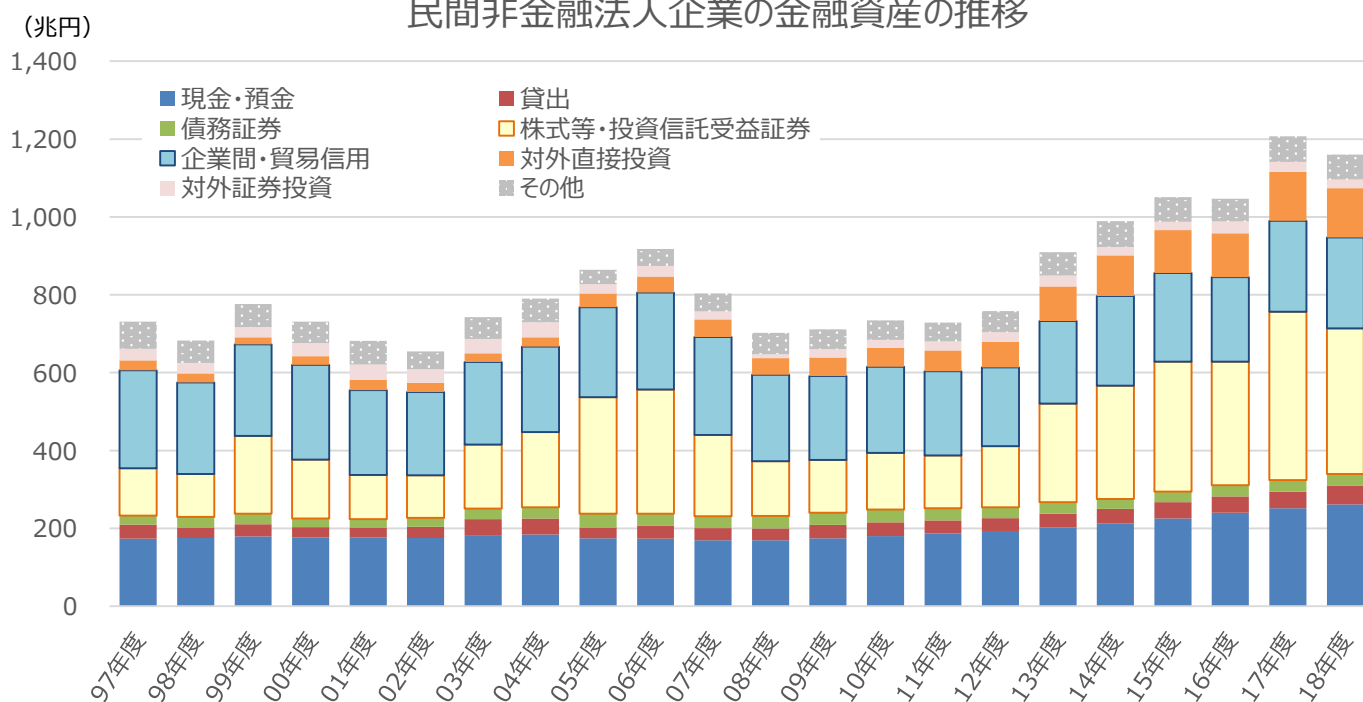
2019年度上期の上場企業の自社株取得枠の設定は5兆円を超えており、今年度は過去最高額に達する可能性が高いと言われています。自社株買いの目的は、厳しい収益環境下、株主還元を果たしつつ資本の効率化を図ることにあり、政策投資株という持合い解消を含めて資本政策の見直しを活発化していることの表れでもあります。

自社株買いを進める前提として、企業の現金保有残高が積みあがっていることもあげられます。現在の現金・預金額は266兆円(2019年6月末現在)にも上っており、企業の立場からは流動性確保という予備的動機を表れですが、市場の評価としては、企業価値向上のために活用すべし、という見方になっている場合があります。すなわち、企業は将来に向けて投資をすることで価値向上が可能となるのであり、そのために現金・預金を活用していくことを評価するのです。将来に向けてもっとも大切な投資は人的投資です。生産性向上を目指す原動力は、アイデアを生み実現をする人の力なのです。それに加えて、R&D\*投資や設備投資があげられます。これらは単に投資額を増やすということではなく、お客さまのニーズを捉え、それに対応するための投資をすることが重要です。さらにM&Aのように企業間競争を勝ち抜くための方向転換や産業のクロスオーバーを目指すことも必要となっているのです。そして、資本効率化という狙いをもって自社株買いをすることはステークホルダーへの還元となるでしょう。企業が現金・預金をどのように活用するかを見るのが、将来の価値を決めるのだと考えます。

\* R&D: Research & Development(研究開発)

柳谷俊郎

民間非金融法人企業の金融資産の推移



出所：日本銀行 資金循環統計のデータに基づきあおぞら投信が作成。

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号：あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第2771号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス：<http://www.aozora-im.co.jp/>